



ガールスカウト防災・減災プロジェクト



「いきるちから」キャンプ 2016 報告

- ◇主催：公益社団法人ガールスカウト日本連盟
- ◇共催：ガールスカウト福島県連盟
- ◇後援：文部科学省、福島県教育委員会、子どもの心と身体の成長支援ネットワーク、東日本大震災支援全国ネットワーク、国立那須甲子青少年自然の家
- ◇日程：2016年9月17日（土）～19日（月・祝）【2泊3日】
- ◇場所：国立那須甲子青少年自然の家（福島県西白河郡）
- ◇事業目的：
 - ・東日本大震災の被害に加え、原子力災害などの影響を受けた子どもたちの心が癒されるよう、豊かな自然の中で、安全に思いきり体を動かし、仲間との友情を深め合うと共に楽しい思い出作りの一助を担う。
 - ・自然豊かなフィールドで実施されるさまざまな体験プログラムや子ども同士やスタッフとのコミュニケーションを通して「防災力」を身につけ、「いきるちから」を養う。
 - ・事業にかかわったスタッフが、事業を通して各々の“ちから”をつけていけるようにする。
- ◇参加者：計81人（病欠などにより当日キャンセル3人）

<人数内訳>

(単位：人)

対象	会員	一般	計
小1	1	4	5
小2	7	6	13
小3	6	13	19
小計	14	23	37
小4	13	5	20
小5	4	12	16
小6	5	5	10
小計	22	22	44
総計	36	45	81

◇スタッフ：計 56 人

＜人数内訳＞

(単位：人)

役割	人数
実行委員長(理事)	1
コア	8
チームリーダー	1
サポートリーダー	24
プログラム	6
マネージメント	7
記録	1
健康サポートチーム	4
緊急車両	1
事務局	2
参加者送迎	1
計	56

◇参加費：参加者 3,000 円 スタッフ 5,000 円

※運営の一部はガールスカウト東日本大震災支援金による

◇事業内容について：

○コアと事務局との事前打合せ

(日程：9月16日(金)11時～17時40分)

○スタッフ事前研修

(日程：9月16日(金)17時40分～9月17日(土)午前)

内容：チームビルディング、専門家による参加者の心のケアに関する
講義、企画・運営に関する打ち合わせ等

○プログラム

	9月17日(土)	9月18日(日)	9月19日(月祝)
午前		朝のつどい 防災ラリー	朝のつどい 森の便りづくり ふりかえり作文 閉会式
午後	開会式 仲間作り パトロールタイム タベのつどい	防災ラリー チームタイム タベのつどい	
夜間	ナイトプログラム	キャンプファイアー	

【9月17日（1日目）】



事前研修



お出迎え



バス到着



開会式



ご対面



仲間づくり



なかよしタイム



タのつどい



ナイトプログラム

【9月18日（2日目）】



水のろ過



トレーナーで担架作り



救急法



けん玉作り



空き缶ランプ



ポリ袋でご飯



ソング



空き缶でご飯



キャンプファイアー

【9月19日（3日目）】



森の便りづくり



閉会式・友情の輪



全員集合

◇参加者のふりかえり

回答数：80人

Q.キャンプはどうでしたか？（単位：人）

とても楽しかった	65
楽しかった	15
楽しくなかった	0

Q.楽しかったのは何でしたか？（複数回答可）

（単位：人）

キャンプファイアー	59
防災ラリー	28
寝るとき・お風呂	5
全部	4

パトロールタイム	3
ごはん	3
いろいろな人と会えたこと	3
クラフトづくり	1

Q.キャンプ中に「できた」こと、「できるようになった」ことは何ですか？（複数回答可）

（単位：人）

けん玉作り(防災ラリー)	24
ごはんを炊く(防災ラリー)	11
ランブづくり(防災ラリー)	7
水のろ過(防災ラリー)	2
三角巾(防災ラリー)	2

ダンス・ゲーム・歌・絵	16
友達ができる	9
チーフを結ぶ	6
生活全体	5
みんなと協力する	2

その他：反対意見を述べるできるようになった。ひとりでふとんがしけるようになった。知らない人としゃべれるようになった。苦手な野菜を食べられるようになった。

Q.感想(抜粋)

- ・みんなで、よるに、あくしゅをしたことがたのしかった。(小2: 会員)
- ・「ありがとう」このキャンプ、そしてガールスカウトの人たちにその言葉を言いたいです。(小5: 一般)
- ・バスに乗った時からドキドキわくわくしていました。着くと空気がすごくおいしくて山の中にいるみたいでした。(小4: 会員)
- ・今年はだれと同じパトロールになるかとワクワクでした。顔合わせが終わり、私は「やった！友達がまた増えた!!」と喜びでいっぱいでした。(小6: 会員)
- ・1日もたたないうちに仲良くなってみんなで元気にすごせました。リーダーもやさしくて、おもしろかったので、うれしかったです。(小5: 一般)
- ・一ばんおもしろかったのは、「ポリぶくろでごはんをたこう」です。いろいろなどうぐ、みぢかにあるものでごはんがたけるとはおもわなかったので、びっくりしました。(小4: 会員)
- ・カンでごはんを作るなんてやってみたことも見たこともないから楽しかったです。すごくべんりでとてもいいと思いました。(小3: 一般)
- ・むずかしかったのはけんだま作りです。かくしぼりとまきむすびがとてもむずかしくて何回もなおしたけど、かんせいしたのでよかったです。(小4: 会員)
- ・ペットボトルでご飯をつくり、もしもの災害の時に役立ちそうで、ためになりました。それから、ろ過そう置もつくり、ろ過のしくみも分かりました。たんか(担架)も、ぼう(棒)と服でつくれてすごいと思いました。(小6: 一般)
- ・楽しかったことはキャンプファイアーです。理由は、仲間のきずなが広がるからです。(小5: 一般)
- ・キャンプファイアーをやるまえに、みんなが作ったランプが道のわきにいっぱいおいてありました。光がすごくキレイでした。(小2: 一般)
- ・私が今回できるようになったこと。それは「協力すること」。(小5: 一般)
- ・今回は自分一人で出来る事がふえた気がします。来年もぜったい参加します！(小5: 一般)
- ・おもしろい行事がいっぱいあったので、来年は友だちもさそって行きたいです。(小3: 一般)
- ・私はこのキャンプで命の大切さを知りました。(小6: 一般)
- ・中学生でも参加できるようにしてほしいです。(小6: 一般)
- ・わたしはキャンプにさんかしたのが初めてで、ドキドキしていきたくなかったけど、やさしくておもしろいお姉さんがいてほっとしました。お姉さんたちと3日間すごせて楽しかったです。来年もさんかしたいです。(小3: 会員)
- ・おうちにかえたら、お父さんとお母さんにキャンプのおもいでをたくさんきかせたいです。つぎのキャンプが、とつてもたのしみです。(小2: 会員)
- ・楽しみながら学んで、みんなと仲良くできて、なかなかできない体験もできて、このガールスカウトに参加できてよかったです。(小6: 一般)
- ・さいごの日ははなれたくないぐらい楽しかったです。(小3: 一般)
- ・わたしは、ガールスカウトに入っていないから、入ってみたいになりました。今年は家でできない事ができて、本当にたのしかったです。(小4: 一般)

◇スタッフのふりかえり

Q.参加の動機・目的 複数回答

(単位:人)

目的・動機	その他スタッフ	サポートリーダー※	計
被災地・被災者支援のための活動に参加したかった	8	6	14
子どもたちのための活動に参加したかった	9	4	13
自己研鑽。自分の力を高めたいと思った。(リーダーになる練習)	5	6	11
日本連盟主催事業で今後の活動に役立つように勉強したい。	0	8	8
一度参加してよい経験ができたので今年も是非。以前参加した人の話を聞いて、薦められて	0	5	5
その他(キャンプのスキル・知識を団で生かす。多様なプログラムが企画され、運営のプロセスを参観できる期待感)など..	3	2	5
地元での開催で参加	3	0	3
被災地・被災者の現状を知りたかった	0	2	2
活躍しているリーダー、トレーナーを知る。全国に仲間を作りたい。思い出作り	1	1	2

※サポートリーダー(高1:6人、高2:5人、高3:1人、大学生年代:12人)

Q.参加目的の達成度

(単位:人)

項目	その他スタッフ	サポートリーダー	計
大変達成できた	4	9	13
やや達成できた	13	14	27
やや達成できなかった	2	1	3
達成できなかった	0	0	0

Q.どんな力が身についたか?(サポートリーダーの回答)

(単位:人)

項目(複数自由回答)	計
子どもの年代に応じた接し方や指導の仕方	6
防災・減災についての知識	2
キャンプ運営	1

Q.感想

- ・1人1人の行動やその子の性格を見極めて、どう対応したらうれしいのか、楽しいのかを考えながら行動していたら、みんなついてきてくれた。県や地区のブラウニーやジュニアたちに、このキャンプのような、私達レンジャーがリーダーをやるようなものを企画運営してみたいと思った。(サポートリーダー・高校生年代)
- ・とても勉強になりました。ぜひ、もっと続けてほしい。(サポートリーダー・高校生年代)
- ・リーダー資格を取って大きな行事に行くのは初めてで、本当に学ぶ事がありました。責任の重さを感じました。これから良いリーダーになれるようがんばります。また日本連盟の行事に参加してみたいです。(サポートリーダー・10代)
- ・先輩リーダーの方々やヤングリーダーの皆さんに助けられ、「こうなり

たい」という目標ができました。子ども達は難しい！でも、かわいいし、愛おしい！本当に疲れたけど、本当にやりがたいがあった。（サポートリーダー・高校生年代）

- ・何か力になりたいという気持ちと、ガールスカウトが復興支援にどのように力を入れているのかを知り、学ばせていただきたいと思い、参加しました。福島の方々、日本連盟の方々が5年の間、丁寧に、そして前向きに、「いきるちから」キャンプをつくりあげていることを、みなさんの表情やつながりから感じました。（プログラムスタッフ・20代）
- ・他のスタッフの方々の意欲的、前向きな姿に刺激を受けた。（マネジメントスタッフ・50代）
- ・自分の団から参加した子どもが時折、笑顔で呼びかけてきて、楽しさを全身で表現してきたのは、指導者としても喜びにつながった。やはり、行動を共にすることで、喜びを共有できたことは良かった。（マネジメントスタッフ・60代）
- ・子ども達は、1人でも多くの大人に見守られていることが、心の成長につながるという事に気がつきました。（健康サポートスタッフ）

◇物品等のご協力

- ・株式会社カワキタ：カップ
- ・ガールスカウト渋谷地区連合会：うちわ

以 上